



# 「ふるさと」について

駒澤大学名誉教授  
佐々木宏幹

# 仏教企画通信

発行日 | 令和2年1月1日  
58号

発行所 | 有限会社 仏教企画  
〒252-0116  
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
Tel. 042-703-8641  
Fax. 042-782-5117  
発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣  
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

## 「ふるさと」とは？

「うさぎ追いしかの山 小鮒  
つりしかの川 夢はいまも  
めぐりて 忘れがたき故郷」  
(尋常小学唱歌、大正三年六月)

この唱歌を知っている人は  
いまだれほどいるだろうか。  
耳にしたことはあっても実感  
がわかないと言う人が大部分  
ではなからうか。まして都会  
に住んでいるひとにおいてお  
や。

ちなみに大正三年は一九一  
四年で、一〇五年も前である。  
今のこの国には、野うさぎ  
のいる山は相当奥地にしかな  
からうし、小鮒のいる小川も  
ごく少なくなっているだろう。  
この唱歌の二番目は、「い  
かにいます父母 恙なしや  
友がき 雨に風につけても  
思ひいずる故郷」、そして三  
番は「こころざしを果たして  
いつの日にか帰らん 山は  
あおき故郷 水は清き故郷」  
である。

私は昭和五年(一九三〇)生  
まれであるから、この唱歌が  
創られた一六年後の産である。  
だから物心ついた頃には、大

人たちがこの歌を歌うのを聞  
いて自然に憶え、口にしてい  
たと思う。

この唱歌全体から感じるの  
は、心ならずも故郷を離れて  
遠くの地に住み働いていた人  
の心情である。

私は宮城県は気仙沼市(当  
時は気仙沼町)の生まれである  
が、幼少の頃お世話になった  
お姉さん(女中さん)は、和歌  
山県に行つて働いたことのある  
人であり、彼女の歌つた  
「一つとせ ふるさと離れて  
きたからにや 二年経たなき  
や 帰られぬ」という何とも  
哀愁にみちた歌は、お姉さん  
の姿とともに今だに忘れるこ  
とはない。

「ふるさと」という語感の響  
きは誰にとつても「懐かし  
い」のではなからうか。

「ふるさと」は、漢字では  
「古里・故郷」であり、①古く  
なり荒れはてた土地。昔、都  
などのあった土地。古跡。旧  
都。②自分が生れた土地。郷  
里。故郷。③かつて住んだこ  
とのある土地。またなじみ深  
い土地、を意味する。

「故郷」と言えばアメリカの  
歌謡作家・作曲家のフォスタ  
ー(ステイブ・コリンズ・フォ  
スター)「八二六(六四)の「故  
郷の人々」を思いだす人も少  
なくないのでなからうか。

「1 はるかなるスワン一河  
岸辺に老いしわが父母 わ  
れを待てり はてしなき道を  
ば さすろう 身にはな慕  
わし 里の家路

寂しき旅を 重ねゆけば  
ただなつかし 遠きわが故  
郷」「2 麦実る 畑に歌い

し 若き日の思いよ 今いず  
こ はらからとむつみし 祈  
りふし母の手に 遊びし日の  
恋しき 寂しき旅を重ねゆけ  
ば ただなつかし 遠きわが  
故郷」(二八五一年、フォスター二  
五歳の時の作。日本では明治二年  
「二八八」『明治唱歌』(二)に掲載。  
わが国の「ふるさと」とア  
メリカの「故郷の人々」とは、  
時代も場所も異なるのに、内  
容的にはどこか重なっている  
のを感じないであろうか。

「ふるさと」の不思議さであ  
る。  
私が「ふるさと」について  
書きたいと思うにいたった動  
機は、小学校の同級生であつ  
た親しい友人のK君が送つて  
くれた同級会に関する資料を  
目にしたことにある。

私が大学入  
学のために上  
京したのは昭  
和二六年(一  
九五二)であつ  
たが、卒業後  
はいろいろな  
事情もあつて  
故郷にはほと  
んど帰ってい  
ない。一、二  
度親戚の葬儀  
の際に帰郷し  
たきりである。  
三歳のときに  
孤児になつた  
私を育ててく  
れたのは母方  
の祖父母と伯  
父・伯母であ  
る。この人た  
ちもみな仏国  
土に行つてし

まった。いとこはいるが、不  
義理が続くと逢い難くなるも  
のである。

K君は小学校時代に私の親  
友であつた。彼は父の仕事の  
窯業を発展させ、今日では日  
本有数の会社のリーダーであ  
る。

この正月に賀状を送つたら、  
小学校の同級生の会「十二和  
会」(昭和二年の入学者の会)の  
名簿と同級会するとき撮つた写  
真数葉を送つてくれた。

写真眺めてみるうちに、  
思わず涙を流してしまつた。  
みなお爺、お婆になつたけれ  
ども、昔の面影をとどめてい  
る。私の思いは瞬時に八〇余  
年の時を超えて、あの頃の  
「ふるさと」の人になつてし  
まつていた。

「ふるさと」は考えるもので  
はなく、「感じる」ところ」だ  
とつくづく感じた。

## ふるさとの山は 有り難きかな

「ふるさとの山にむかいて言  
うことなし ふるさとの山は  
有り難きかな」と詠んだのは、  
岩手県生れの歌人石川啄木で  
あり、有り難い山は岩手山  
(海拔二〇三八メートル)であつた。  
盛岡市北西にある成層火山で  
ある。岩手を訪ねたときに何  
度も目にした山であるが、私  
には格別どうこう言いたいほ  
どの山ではなかつた。啄木が  
岩手山を有り難いと感じたの  
は、何にも増してそれが「ふ  
るさと」の山であつたからで  
はなかつたか。彼は天才作  
家・詩人であつたが、二六歳  
で天逝している。

「やわらかに柳青める北上の  
岸辺目に見ゆ 泣けとごとく  
に」は、東京で病み、故郷に  
帰る際に汽車の窓から目にし  
た北上川の、早春の風景を詠  
んだものだろうか。  
北上川は岩手県中部に発し、  
奥羽山脈と北上山地の間を南  
流し、宮城県の石巻湾に注ぐ  
大河である。私が気仙沼に帰  
るとき眺めた北上川はいつも  
濁つて泥色であつた。

「ふるさと」を想うときまず  
頭に浮かぶのは、この国では  
山と川と海ではなからうか。  
毎年春に甲子園で開催され  
る全国選抜高校野球大会に出  
場した球児たちが高らかに歌  
う校歌の歌詞の多くは、必ず

と言つていいほど「ふるさ



と」の山、川、海に触れている。私が感銘を受けたのは、北海道にある東海大学付属札幌高校(旧東海大学附属第四高校)の校歌であり、歌詞は同大学創立者の松前重義氏の手に成る。

「寒流洗う北洋の 空に北斗のさゆるとこ 見よ北道に光あり これぞ東海わが母校」というもので、曲がまた素晴らしい。ここ数年出てこないのが寂しい。私が出た高校の校歌はこうであった。

「遠くは雲上の室根山 高さを学べと尊えたり 近くは蒼波の鼎浦 清さを学べと湛えたり」。室根山は海拔八九五メートルで、ふるさとのどこからでも見えた。私が学んだ小学校からは手長山(五四一メートル)が仰がれた。遠足の多くはこの山であり、「ふるさと」の象徴と言ってもいい存在であった。

小学二年生のときであったか、初めてこの山に登った。体の弱かった私は、友だちに手を引かれ、青息吐息で頂上に立った。その途端、それまでの苦しさ辛さはどこかへ素っ飛んでしまった。眼下には「ふるさと」のあの家この家が玩具のように見え、遠くには太平洋が果てしもなく広がっていた。生れて始めて自分のちっぽけさを自覚した瞬間でもあった。

山は(海もそうだろうが)その人の人生観(感覚)に大きな影響を与える存在であることは間違いない。とくに「ふるさと」の山は「有り難い」対象なのである。「有り難うございませう」という言葉は、感謝の意を示す挨拶語である。その意味には、①存在が稀である、②生きがたい、③すぐれている、立派である、と並んで④またとなく尊い、もつたない、恐れ多い、⑤感謝したい、⑥本当に恵まれていてうれいなどがあり、④、⑤、⑥は相手・対象にたいする「宗教的な心意・感覚」を示唆しているとも言えよう。

私の子供の頃、永平寺の貫首猊下がわが寺に来られたことがある。奥の間に着座した猊下にたいして、住職外数名の僧が「五体投地」の礼拝を済ませたのち、「有り難かつたなあ」と呟き合っているのを耳にして、「有り難さ」なる心情の何かを感得したことがある。

石川啄木の「ふるさと」の山はまさしく宗教の対象であったのではなからうか。「愛の詩集」や『幼年時代』などを残した。

「ふるさと」あれこれ

「故郷は遠くにありて想うもの」と述べたのは、たしか石川果は金沢市生まれの詩人・作家、室生犀星(一八九一―一九六二)ではなかつたかと思う。九六二ではなかつたかと思う。『愛の詩集』や『幼年時代』などを残した。

氏の人生はなだらかではなかった。私生児として生れ、七歳のときに真言宗の兩宝院に預けられ養子となって室生姓となる。氏には「夏の日の匹夫の胎に生れけり」という一句がある。私が若い頃に読んで感銘を受けたのは氏の「性に目ざめる頃」である。男の子が女性に関心をもち始めた頃の体験記である。寺参りにくる若い女性たちの肉体のありようが知りたくて、本堂の階段下に身を潜めて、覗き見する姿の描写だが、真に迫っている。健康な男の子なら強弱の差はあれ、犀星に似た異性へのドキドキ感を体験しているのではなからうか。私にも似たような経験がある。私に育つたお寺には若いお姉さんが二人いた。一七、八歳頃かと思うが二人とも私の目には綺麗な人たちだった。冬の長い東北であるが、春になると南風が吹き、野も山も一気に活気づいてくる。田圃には後に肥料となる蓮華草の花が一面に咲きほこっていた。Tさんというお姉さんが私を連れだして蓮華草の群れを踏みしだきながら駆けっこをしてくれた。草を掻き分けながら走っていたお姉さんが草の中に身を伏せて突然見えなくなった。懸命に走つてお姉さんの身にドーロとばかり飛びついた。汗の匂いがした甘酸っぱい匂いは八〇年以上経つた今も忘れない。

て、涙がとまらなかつた。それから数十年の星霜移り、私が東京で勤めていたとき、このお姉さんと一度渋谷のレストランで逢つたことがある。娘さんが東京で働いており訪ねてきたという。彼女はお婆さんになっていた。あの甘酸っぱい匂いはどこへ行ったのか。諸行無常! 「ふるさと」と言えば想いだすのは手長山である。この山の裏手に「二十一」という地域があり、歌人熊谷武雄の故郷である。武雄は明治四〇年(一九〇七)に歌人前田夕暮の白日出同人となり、大正四年(一九一五)短歌「野火」を出版、日本歌壇にとつて大きな存在となつた方である。



やがて紫から黒に移つていくのを土手に横たわつていつまでも眺めているのが好きだった。家に帰る時をできるだけ遅くしたいのも狙いの一つであった。

道のならわいを 努めはげめてみ恵みに 報いまつらん今日よりは。一番は送る側が、二番は送られる側、そして三番目は両者で歌つたと記憶する。私は旧制中学へ進んだが、大部分は高等科(二年)に進み、終了後は家業に励んだ。「ふるさと」はそこで生まれ育つた者にとっては、人格の基礎部分を作りあげる栄養素であるように思う。七〇年近く東京に住んでいても、私には「ふるさと」の匂いが立ち籠っているはずだ。一九七三年(昭和四八)に五木ひろしが歌つた「ふるさと」の一部を記そう。「小川のせせらぎ 帰りの道で 妹ととりあつた赤い野苺 緑の谷間 ならだらかに 仔馬は集い 鳥はなく あー誰にも 故郷がある 故郷がある」。赤いネオンの 空見上げれば 月の光が はるかに 遠い 風に吹かれりや しみじみと 思い出します 困り裏ばた あー誰にも 故郷がある 故郷がある 故郷がある。田舎から大都市に仕事を求めてやってきた人の、望郷の歌であるうか。

1. 千手経群について

大悲心陀羅尼は『千手経』(『千手千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經』)の一部なので、もとの『千手経』の解説から始めてみたい。本経は千手千眼という経題にあるように、千手観音の信仰を説く經典であるが、この千手観音に関連する文献群を漢訳大蔵經の定番である大正新修大蔵經(第二〇巻)から上げてみると、以下の十五種類の經典が収録されている。

- ① 不空訳『金剛頂瑜伽千手千眼觀自在菩薩修行儀軌經』(大正蔵 No.1056)
- ② 智通訳『千眼千臂觀世音菩薩陀羅尼神呪經』(大正蔵 No.1057A)
- ③ 智通譯『千眼千臂觀世音菩薩陀羅尼神呪經』(No.1057B)
- ④ 菩提流志譯『千手千眼觀世音菩薩姥陀羅尼身經』(No.1058)
- ⑤ 伽梵達摩譯『千手千眼觀世音菩薩治病合藥經』(No.1059)
- ⑥ 伽梵達摩譯『千手千眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經』(No.1060)
- ⑦ 金剛智譯『千手千眼觀自在菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼呪本』(No.1061)
- ⑧ 金剛智譯『千手千眼觀世音菩薩大身呪本』(No.1062A)
- ⑨ 金剛智譯『世尊聖者千眼千首千足千舌千臂觀自在菩薩薩埵恒轉廣大圓滿無礙大悲

- ⑩ 失譯『番大悲神呪』(No.1063)
- ⑪ 不空譯『千手千眼觀世音菩薩大悲心陀羅尼』(No.1064)
- ⑫ 三昧蘇嚩囉譯『千光眼觀自在菩薩祕密法經』(No.1065)
- ⑬ 不空譯『大悲心陀羅尼修行念誦略儀』(No.1066)
- ⑭ 不空譯『攝無礙大悲心陀羅尼經計一法中出無量義南方滿願補陀洛海會五部諸尊等弘誓力方位及威儀形色執

あり、金剛界曼荼羅を説く『金剛頂經』系統の儀軌(密教儀礼の執行規定および、諸尊の造像供養、呪文の誦誦などの修法の方法を記したものである。

と、増広されたダラニとなつていて、サンスクリットの正確さも増している。次回から扱う翻訳にも、この不空訳を大いに参照した。



東洋大学文学部教授 渡辺章悟

- 持三摩耶標幟曼荼羅儀軌』(No.1067)
- ⑮ 善無畏譯『千手觀音造次第法儀軌』(No.1068)

これらはすべて千手観音に関連する千手経の異本異訳であるが、ここでは最新の田中公明(2019)を参考に、これらのテキストを簡単に概略しておきたい。

もつ千手観音を説いている。⑥の伽梵達摩訳は『千手経』といわれ、後世に最も影響を与えている經典であり、本稿でこの経を中心論じてゆく。おなじく⑤の伽梵達摩訳『治病合藥經』(No.1059)は、本経に付属する儀軌である。

2. 千手経の解説

伽梵達摩訳『千手経』は、三分、正宗分、流通分をいう三部分をもつた經典の形態を備え、千手観音の信仰を説く經典の中で、東アジアで最も広く流通した重要な經典である。本経の中に「廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼」(大悲心陀羅尼)が収録されており、この部分が現在の禅宗等の常用經典にもなっている。

この經典は、釈迦牟尼仏が補陀落迦山にある觀世音菩薩

の宮殿である宝莊嚴道場にて、宝獅子座という瞑想をしていた。その時、仏は総持陀羅尼を演説しようとする無数の菩薩、摩訶迦葉をリーダーとする大聲聞たち、多くの神々や八部衆、自然界の神々などの対告衆を前にしていた。以上が本経の序文である。次いで正宗分であるが、その最初に觀世音菩薩の登場が次のように描かれる。その集会の中に觀世音菩薩がおられ、神通によって大光明を放つと、三千大千世界が金色に輝き、世界は震れ動いた。それを不思議に思った総持王菩薩がその理由を釈迦牟尼仏に尋ねた。すると釈迦牟尼仏が、その大光明は觀世音自在菩薩が放つたものであり、この菩薩は無量劫から大慈大悲を備え、無量の陀羅尼を修得していることを明かした。そこで觀世音菩薩はその座から立ち上がり、仏に向かって合掌し、以下のような十種の利他のために、「大悲心陀羅尼」を説くことを仏に願い出る。

- (1) 諸々の衆生に安樂を得させんが為
- (2) 一切の病を除かんが為
- (3) 壽命を得させんが為
- (4) 富裕を得させんが為
- (5) 一切の悪業重罪を滅除させんが為
- (6) 障礙を離れさせんが為
- (7) 一切の白法の功徳を増長させんが為
- (8) 一切の善根を成就させんが為
- (9) 一切の畏怖を遠離させんが為

**禁足期間後に感じた日本人の大きな変化**

**藤木** 藤井さんが僧堂(岩手県正法寺)に入られた頃は日本中が大変な時期でもありました。その頃のお話を聞かせて戴いてもよろしいですか。

**藤井** お寺に入ったのが一九五五年の三月でした。一九五五年というのは一月に阪神・淡路大震災、三月に地下鉄サリン事件があった年です。今でもすごくイメージとして覚えているのは、私自身が百日の禁足期間が過ぎて娑婆に少し出る機会があったときに、会う人々の感覚ががらっと変わっていたんですよ。それまでの日本人の意識と三カ月後の意識が全然違っていたんです。

**藤木** 大きな事が立て続けに起きましたからね。日本中が動揺しました。

**藤井** 私は後々修行の時代を振り返ったときに、修行行行って変わったとは全然思っていないので、そうなるご自分の周囲のほうが変わっていたということですか。

**藤木** 私への対応が変わったというの少しはあったかもしれないですけども、普通に接していた友達とか目上の方とかでも、やはり変わっていったと感じています。

**藤木** 具体的にどのようにお感じになったのですか。

**藤井** 一つは不安感の蔓延です。それは何に対しての不安かというところ、まず阪神・淡路大震災の記憶や体験からくる

実践修行を模索する中で出会ったボランティア活動

**株式会社シマーズ 島津清彦社長** × **zafu代表 藤井隆英師 インタビュー**

聞き手 **藤木隆宣**

**藤木** あの時期は、特にオウム真理教関連の影響が大変大

なく、蓮華の上に化生したとされる。即時に、千手千眼を備えることができたという。これが本経で説かれる千手千眼観音の由来である。したがって、ここで言う観世音菩薩は千手千眼観音ということになる。「千手千眼」とは、あらゆる衆生を漏れなくすくい取る大慈悲の手と、衆生を教化する菩薩の智慧である眼が無量であることを象徴的に言ったもので、このような卓越した能力を持つ観世音菩薩を千手千眼と表現したわけですね。このことは後述するとして、千手経では次のように続ける。その後、私(観世音)は多くの仏の說法において何度もこの陀羅尼を授けられ、繰り返して踊りあがって喜び、限りない生死輪廻を超越することができた。そしてその間、常にこの陀羅尼を唱え、忘れることはなかった。こうして、この陀羅尼を受持、誦誦してきため、常に仏の前に生まれることができ、母胎からでは

五、(悪心は)自ら調伏する

六、自ら大智慧を得る

という六つの功德がやはり偈文の形で述べられる。そして、これら十誓願と六功德の後に、「是の願を発し已わり、至心に我の名字を称念し、亦た応(かならず)我が本師阿弥陀如来を専念し、然る後に即ち當に此の陀羅尼神呪を誦すべし。一宿に誦すること五遍に満つれば、身中の百万億劫の生死の重罪を除滅せん」といい、観音の師である阿弥陀仏を専心して念じ、さらにこの「大悲心」陀羅尼を一晚に五遍唱えれば、この身に蓄積した輪廻の元となる重罪も除くことができるという。

3. 観世音への十大願

この十願・六功德・阿弥陀仏への専心について、この内容を以前に刊行した「文華堂版・観音十大願めぐら経」(渡辺章悟、二〇一二年所収)から紹介しておきたい。

以下で紹介する経本は、上に述べてきた「千手経」の十大願と六功德に基づいているが、羽前(山形県)鶴岡にあった文華堂から刊行された木版印刷本で、絵文字で書かれた折本の形になっている。ただし絵経といっても完全な絵文

字ではなく、絵による解説文に近いもの、これにルビ付きの原漢字も添えられている。本絵経では一頁目の冒頭「南無大悲観世音」と書かれ、後は省略されている以外、ほとんど全同である。構造も十誓願の後で六つの功德文が述べられるところで、「是より我向」が右肩に彫られているように、原文と変わらない。この絵経の最後⑤に「南無大悲観世音」「南無阿弥陀仏」と書いてあるが、それは「千手経」にもあるし、観世音菩薩が勢至菩薩とならんで阿弥陀の脇士として阿弥陀三尊と称されるように、阿弥陀仏が観音菩薩の師であったことによる。

このように、この絵経は千手経の観音信仰から展開した

スで錆びてしまっていて、折角のセンサーが働かなくなっています。坐禅をして自分の感覚、感性を研ぎ澄ませていくことが大切だと思っています。

**敷居を感じてしまうお寺の反応**

**藤木** お話を伺っていると、会場にお寺が入っていないのですが、お寺はいかがですか。お役に立ちませんか。(笑)

**島津** 実はお寺にも幾つかアプローチしたことがあるのですが、あまり協力的ではありませんでした。今までは少し形を変えて禅をお伝えするのに、お寺は最高の場所ですと申しますと、「いやいや、坐禅会はうちでしていますからそのときにいらっしゃってください」という感じですね。お寺はまずスペースとして素晴らさなければ、そういうお話をさせていただこうとお話をしていただこうとする、これは坐禅は誰が指導するのですか」と。「すみません、一応私がいたします」と言うと、「いや、坐禅は大丈夫ですから。」「では坐禅指導をご協力戴けますでしょうか?」と言うと、「でも法事が入ったらそれは無理ですよ」と。「もちろん、そこは重々承知はしているのですが、何かちょっと敷居みたいなものを感じてしまいます。私の師匠のご自坊で開催したときは、一人往復で三万円ぐらいの交通費をかけて青森まで行き、お寺に一泊泊まって帰ってくるコースです。そ

1	南無大悲観世音	願わくは我、速やかに一切の法を知らんことを
2	南無大悲観世音	願わくは我、早く智慧の眼を得んことを
3	南無大悲観世音	願わくは我、速やかに一切の衆を度せんことを
4	南無大悲観世音	願わくは我、早く善方便を得んことを
5	南無大悲観世音	願わくは我、速やかに般若の船に乗らんことを
6	南無大悲観世音	願わくは我、早く苦海を越えんことを
7	南無大悲観世音	願わくは我、速やかに戒定の道を得んことを
8	南無大悲観世音	願わくは我、早く涅槃の山に登らんことを
9	南無大悲観世音	願わくは我、速やかに無為の舎に會せんことを
10	南無大悲観世音	願わくは我、早く法性の身に同せんことを
11	南無大悲観世音	刀山自ら摧折せんことを
12	南無大悲観世音	火湯自ら消滅せんことを
13	南無大悲観世音	地獄自ら枯竭せんことを
14	南無大悲観世音	我若し地獄に向かわば 餓鬼自ら飽満せんことを
15	南無大悲観世音	我若し餓鬼に向かわば 悪心自ら調伏せんことを
16	南無大悲観世音	我若し修羅に向かわば 自ら大智慧を得んことを
17	南無大悲観世音	我若し畜生に向かわば

「私が観音菩薩に誓って帰依するならば、願いは成就されるであろう」といい、観音菩薩が慈悲をもって帰依する者の願いを叶えて下さるという内容が偈文の形で纏められたものである。その前半は「南無大悲観世音 願我○○」(南無大悲(を持つ)観世音菩薩よ。願わくは我○○)という形式で説かれる。これらは三論宗の大成就者である吉藏(ぎじやう)の「法華義疏」(大正蔵三四卷六二八下)にも十大願として述べられたため、東アジアの仏教に広く知られたものとなった。

ついで述べられる、「我若向○○」(もし私が「六つの悪処」に向かうとしても、それらは自ら消滅するであろう)等という功德を六つ述べると、それら「六つの悪処」とは、刀山、火湯、地獄、餓鬼、修羅、畜生の六ヶ処であり、それらに対してそれぞれ、

五、(悪心は)自ら調伏する

六、自ら大智慧を得る

という六つの功德がやはり偈文の形で述べられる。そして、これら十誓願と六功德の後に、「是の願を発し已わり、至心に我の名字を称念し、亦た応(かならず)我が本師阿弥陀如来を専念し、然る後に即ち當に此の陀羅尼神呪を誦すべし。一宿に誦すること五遍に満つれば、身中の百万億劫の生死の重罪を除滅せん」といい、観音の師である阿弥陀仏を専心して念じ、さらにこの「大悲心」陀羅尼を一晚に五遍唱えれば、この身に蓄積した輪廻の元となる重罪も除くことができるという。

字ではなく、絵による解説文に近いもの、これにルビ付きの原漢字も添えられている。本絵経では一頁目の冒頭「南無大悲観世音」と書かれ、後は省略されている以外、ほとんど全同である。構造も十誓願の後で六つの功德文が述べられるところで、「是より我向」が右肩に彫られているように、原文と変わらない。この絵経の最後⑤に「南無大悲観世音」「南無阿弥陀仏」と書いてあるが、それは「千手経」にもあるし、観世音菩薩が勢至菩薩とならんで阿弥陀の脇士として阿弥陀三尊と称されるように、阿弥陀仏が観音菩薩の師であったことによる。

このように、この絵経は千手経の観音信仰から展開した

【参考文献】

磯田照文『大悲心陀羅尼』について(大本山妙心寺教化センター教学研究紀要第五号、二〇〇七年)

田中公明『千手観音と二十八部衆の謎』(春秋社、二〇一九年)

野口善敬『ナムカラタンノの世界―「千手経」と大悲呪の研究―』(禅文化研究所、一九九九年)

渡辺章悟『絵経き般若心経(フンブル社、二〇一二年)

為に、(10)速やかに能く一切の希求を満足させるが為に。私がこれを許可すると、観世音自在菩薩は、重ねてこの大悲心陀羅尼を説く由来を次のように述べる。

無量億劫の過去世において、千光王静住如来という仏が現れたとき、観世音がこの千光王静住仏から「大悲心陀羅尼」を授けられ、その際に「この大悲心陀羅尼を唱えて、未来の悪しき世の一切衆生のために、広く利益と安楽を与えなければならぬ」という言葉を受けた。

その時、私(観世音)は菩薩の(十地の段階の)初地(歡喜地)になったところだったが、この呪文を聞いて、第八地(不動地)まで飛び越えた。そこで心に歡喜が生じ、「もし私が将来、一切衆生に利益と安楽を与えることができたなら、私に千手と千眼を与えて下さい」という誓願を發した。

すると、即時に、千手千眼を備えることができたという。これが本経で説かれる千手千眼観音の由来である。したがって、ここで言う観世音菩薩は千手千眼観音ということになる。「千手千眼」とは、あらゆる衆生を漏れなくすくい取る大慈悲の手と、衆生を教化する菩薩の智慧である眼が無量であることを象徴的に言ったもので、このような卓越した能力を持つ観世音菩薩を千手千眼と表現したわけですね。このことは後述するとして、千手経では次のように続ける。その後、私(観世音)は多くの仏の說法において何度もこの陀羅尼を授けられ、繰り返して踊りあがって喜び、限りない生死輪廻を超越することができた。そしてその間、常にこの陀羅尼を唱え、忘れることはなかった。こうして、この陀羅尼を受持、誦誦してきため、常に仏の前に生まれることができ、母胎からでは

五、(悪心は)自ら調伏する

六、自ら大智慧を得る

という六つの功德がやはり偈文の形で述べられる。そして、これら十誓願と六功德の後に、「是の願を発し已わり、至心に我の名字を称念し、亦た応(かならず)我が本師阿弥陀如来を専念し、然る後に即ち當に此の陀羅尼神呪を誦すべし。一宿に誦すること五遍に満つれば、身中の百万億劫の生死の重罪を除滅せん」といい、観音の師である阿弥陀仏を専心して念じ、さらにこの「大悲心」陀羅尼を一晚に五遍唱えれば、この身に蓄積した輪廻の元となる重罪も除くことができるという。

五、(悪心は)自ら調伏する

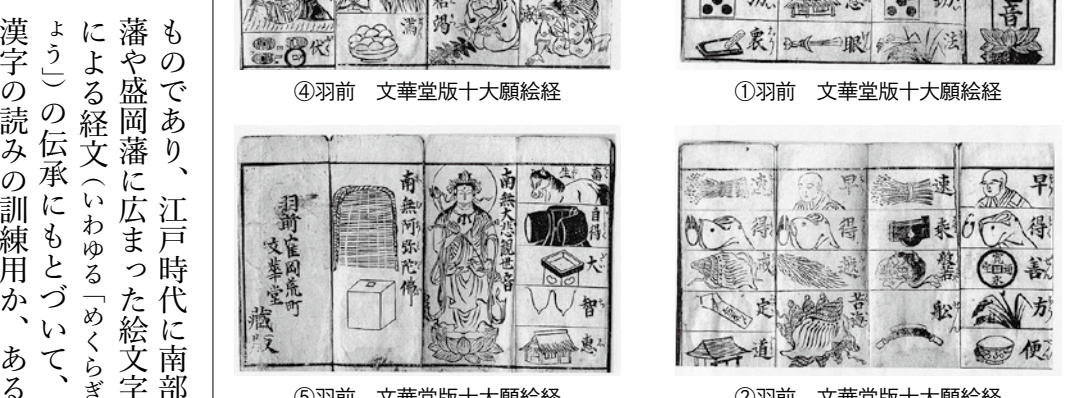
六、自ら大智慧を得る

という六つの功德がやはり偈文の形で述べられる。そして、これら十誓願と六功德の後に、「是の願を発し已わり、至心に我の名字を称念し、亦た応(かならず)我が本師阿弥陀如来を専念し、然る後に即ち當に此の陀羅尼神呪を誦すべし。一宿に誦すること五遍に満つれば、身中の百万億劫の生死の重罪を除滅せん」といい、観音の師である阿弥陀仏を専心して念じ、さらにこの「大悲心」陀羅尼を一晚に五遍唱えれば、この身に蓄積した輪廻の元となる重罪も除くことができるという。

五、(悪心は)自ら調伏する

六、自ら大智慧を得る

という六つの功德がやはり偈文の形で述べられる。そして、これら十誓願と六功德の後に、「是の願を発し已わり、至心に我の名字を称念し、亦た応(かならず)我が本師阿弥陀如来を専念し、然る後に即ち當に此の陀羅尼神呪を誦すべし。一宿に誦すること五遍に満つれば、身中の百万億劫の生死の重罪を除滅せん」といい、観音の師である阿弥陀仏を専心して念じ、さらにこの「大悲心」陀羅尼を一晚に五遍唱えれば、この身に蓄積した輪廻の元となる重罪も除くことができるという。



①羽前 文華堂版十大願絵経

②羽前 文華堂版十大願絵経

③羽前 文華堂版十大願絵経

④羽前 文華堂版十大願絵経

⑤羽前 文華堂版十大願絵経



本堂



玄関



2階 和室



日庭寺外観



2階 ロビー



1階 仏教企画事務所・ギャラリー



1階 佐々木宏幹文庫

### 相模原市緑区城山に完成した

# 日庭寺

これはそれで最高の環境ですごくいいのですが、もう少し近くにもあれば、とも考えます。実はそういうお寺のスペースをもう少し開放的にしていたら、とても需要はあるわけですね。

### 「過性で終わってはいけないお寺の開放」

**藤木** 藤井さんの場合にはお寺がこうあってほしい理想が相当ありかと思えますがいかがでしょうか。

**藤井** 今、お寺を開放したり、僧侶という自分を身近に感じてもらえるような、自分の趣味と僧侶という自分をつなげて発揮することで、仏教や禅に親しんでもらうという方が出てきています。

でも大事なことは、それに求めている方は、普段なじみのないお坊さんであったりお寺の技量を体感したいと思ってるわけ、大多数の方がそこで終わってしまうんです。若い僧侶は自分を発揮できるから、それは楽しいんですけども、そこで終わってしまう方が結構多かったです。自分自身がもっと学びたい、分かってほしい、ただそれを切り取って伝えるだけでいいんだと。そうしてしまうと学びはないから、頭打ちになりますし、その次がないということなんです。

**藤木** はやりを越えたところに行くためには、どういうような組み立てがいいかと思えますか。

**藤井** 今の宗教とか、僧侶とかお坊さんというのは、修行の方法であって、その方法が仏法なんだと。あとは知識を得ることが仏法なんだというところで止まっている。その先というのは何かという、問うということ。問うということ、これをすることであなたに楽になるようにして、仏法を伝えることには全然ならないと思っています。そこが今の寺やうって伝えている僧侶、お寺の足りないところかなと思います。

お寺で言えば、それこそヨガの教室を定期的に行っている、いろいろな講座を定期的にと、イベント的にやっているお寺とかが最近あります。一過性で終わってしまっているのではないですか。お寺側として最初からこの催しは、例えば仏教であり、それぞれの宗派の宗旨でありと、ちゃんと照らし合わせながら、これが寺院興隆、布教にどういふふうにつながる催しなのかというのをちゃんと問うた上で実行に移していく。そこが私の一番言いたいところなんです。

**藤木** 昨今、マインドフルネスが急速に認知されてきています。

**藤井** ここで大事なのは、宗教というのは、効率の部分が高めるものではないんです。坐禅とマインドフルネスの違い

にもなるのですが、マインドフルネスでは坐禅をするこの効果を数値で表して効果を謳ったりしますね。結果的に効果が出るかもしれないけど、それが結果であって、だから坐禅をしましょうと僧侶が伝えるというのは、もうそれは僧侶のすることではないと私は思っています。では何が僧侶には必要なのかと、いいいますと、「問う」という観点を伝える役割が僧侶にはあるのではないかと考えます。今、僧侶でも、坐禅を効率として伝えていこうという方もいます。そうじゃないと人が集まらないから、そうやってひとつの入り口であって、そこで終わりにするのは僧侶として絶対に行ってはいけないことだと私は思っています。

### 「変えてはいけないこと」「変えなければいけないこと」のバランスが大切です

**島津** 私は今が、大きな変わり目だと思っています。お寺だけでではなく全てにおいて、今までの価値観が変わる時期だと思っています。最近あらためて、「不易流行」を考えるのです。これはもともと松尾芭蕉の俳諧の理念ですが、「変えてはいけないこと」「変えなければいけないこと」というバランスをいかに取るか。どこまで一般の社

会に合わせるのか、どこを合わせるべきか、ここが線引きをできるのが優れたお寺の経営者だと思えます。だから、ある程度時代に合わせずにはいられないです。しかし根この部分をきちんと持ちながら、多少表情を変えても軸はぶらさない、その工夫です。そこに知恵を絞るといいますか、努力する、考え抜くことが今まさに問われています。

なみに私の場合は、マインドフルネスということと禅の言葉、両方を説明するわけですが、藤木 なるほど。それは分かりやすいですね。

**島津** どちらも使って、どちらの説明もします。入り口はこうですよ。一般に開かれた坐禅会も毎月でいます。必ず軸のところから入るようにしています。自灯明、法灯明、四諦八正道、行住座臥。ただし、現実にはそれとちよっとまだ難しいという方もいるので、皆さんの様子を見ながら、日常語も取り入れて、分かりやすくかみ砕いて、お話しするようにしています。またITや新しいテクノロジーを使うながら、どう届けるかということにもチャレンジしています。

**藤木** 最終的には、未来を背負う子どもたちのための活動を

**島津** 最近、子育て中のお母さんや子どもたちという取材が少しずつ増えてきました。先日進学塾の取材を受

けてまして、お母さんたちに何か話をしてほしいということもありました。

私の活動は最終的には、未来を背負っている子どもたちの問題に向かっていると思っています。昔はなかった子どもがうつ病が、今は小学生の間からあるのです。かつては同じ屋根の下や敷地の中に三世代が住んでいたり、ご近所同士声をかけあってコミュニケーションを取っていました。今は「子どもの熱が出た、どうしよう」とって、自分でネット調べて、それからまた子どもにうつってという繰り返しの不安があります。子育ての不安から、少しでもお母さんたちを解放してあげること、子どもたちも楽になって伸び伸びと育っていくでしょう。

私は、最後は子どもたちをどう救うかが日本の未来をつくると思っています。今は経営者向けに結構硬いところやっています。最終的には家庭や子どもたちというところに辿り着くと思っています。またそのときに、お寺がどういう役割を果たすかにも常に関心を持っています。かつてお寺は地域の核のような存在だったのですから、現代でもこれからはできることはおそろしくいっぱいあると思えます。

地元のお寺のお祭りじゃないですが、人が集まりやすい機会があって、その中でちょっと勉強したり相談に乗ったり。お悩み、お困りごとみたいなのをというのは、きつと

一番適しているんじゃないかと思うんです。地域の中の役割として。

**藤木** 現代のお寺には、地域との繋がりや地域性といったものが希薄な印象がありますね。残念なことですが。昔はまさしく「駆け込み寺」というくらい、困ったときにはお寺へなんていう存在だったのです。

**島津** うちの娘も怒られて、うわつと泣いたと思ったら、どこかへいなくなることがありました。「娘がいない、どこへ行っただ」と焦って探していたら、隣のお家でテレビを観ているんです。(笑)親のほうは心配で心配で、「お隣さんかしら」とインターホンを鳴らしたら、「あれ、娘の靴がある」。奥からテレビを観てあははと笑っている声が聞こえてきます。怒られたことを忘れてもうけろつとしていたんですけど、そういう場所があるんですよ。おじいちゃん、おばあちゃんとかご近所にいらつしゃって、子どもが叱られた後は「あそこにいるだろう」という場所がある。そういう逃げ場が今はないわけですね、今の子どもたちの中には。

**藤木** お寺って結構広い境内があっても、遊べる場所もいろいろあります。

**島津** 絶対いいんです。積極的な逃げ場といますか、逃げこんでもいい場所は、お寺しかないですよ。子どもの居場所づくりに旗を振れるのはお寺しかないです。



仏教企画の事務所が日庭寺と同じ住所になりました。

「仏教企画通信」第57号で私  
 が今建てているお寺には仏具  
 類がなにもそろっていないと  
 訴えたところ、早速に岐阜県  
 のご寺院からご寄付のお申し  
 込みがありお送りいただいた。  
 11月23日に入仏落慶法要を予  
 定していただきますのでお送りいた  
 だいた仏具が間に合うことにな  
 り厚く御礼申し上げます。

私たち夫婦の20年来念願の  
 お寺が結婚50年の金婚式に完  
 成しました。私の現在の住職  
 地は檀家、信者ゼロのお寺で  
 したので、いつかは我が寺を  
 持ちたかったのです。土地も  
 宗教法人「日庭寺」で購入し  
 ました。役所への申請もすべ  
 て宗教法人「日庭寺」で進め、  
 確認申請も「日庭寺」で許可  
 されています。  
 現在は建物登記を申請する

さて、新規に開教するには  
 浄土真宗本願寺さんから学ぶ  
 ことが多いように思います。  
 特に東京を中心にして関東一  
 円では築地本願寺さんが大き  
 な役割を担っています。都市開  
 教を目指す若い僧を築地本願  
 寺の出張所員として任命し、  
 2年から3年間給料を支給し  
 て支援するのは。まずは一  
 軒家を借りて6畳間からの出  
 発です。若い僧はまず葬儀屋

手続きをしています。文科省  
 あるいは神奈川県から宗教法  
 人の認可が出るまでは宗教団  
 体として活動いたします。  
 さてどのような寺なのかは  
 写真でご紹介していますが、  
 いよいよ11月9日から落慶ウ  
 イークとして様々な企画を立  
 てました。この原稿を書いて  
 いるのが11月3日で活動の始  
 まる9日までには6日間しか  
 ありません、地域の人々には  
 なじみがない寺ですからどれ  
 だけの人が来て下さるのか焦  
 ります。人集めのために新聞  
 折込用のチラシ9000枚  
 印刷し11月4日朝に読売と朝  
 日新聞販売所から発信されま  
 す。とにかくやってみなければ  
 分からないとの信念ですが結  
 果は全く分かりません。しか  
 しこの結果からしか次のステ  
 ップが生まれないと考える  
 からです。

藤木隆宣



### 手まり学園

寄附者御芳名  
R1/8/1~10/21

所在地	寺院名(個人名)	金額
神奈川県	青木義次(72)	8,000
埼玉県	宝光寺	10,000
秋田県	歓喜寺	10,000
秋田県	円通寺	5,000
宮城県	皆伝寺	10,000
岩手県	福蔵寺	9,124
茨城県	龍泉院	10,000
神奈川県	青木義次(73)	8,000
宮城県	光厳寺	10,000
兵庫県	瑞雲寺	10,000
岩手県	長福寺	10,000
滋賀県	慈眼院	10,000
三重県	光明寺	10,000
長野県	常圓寺	10,000
山形県	大寿昭芳	2,150
埼玉県	見性院	10,000
三重県	地藏院	10,000
新潟県	永林寺	5,000
北海道	普光寺	10,000
神奈川県	松田 薫	10,000
静岡県	宿蘆寺	30,000
静岡県	天林寺	10,000
埼玉県	曹源寺	10,000
三重県	傳法寺	5,000
神奈川県	青木義次(74)	8,000
山形県	長應寺	10,000
鳥取県	林泉寺	10,000
千葉県	宗胤寺	10,000
茨城県	藤長寺	10,000
静岡県	龍雲寺	5,000
合計		285,274

てまり学園にご支援をいただき  
誠にありがとうございます。

さん、互助会と縁を持ち葬儀  
 から信者さんとの縁を結びま  
 す。この出会いを大事にして  
 多分10年から15年で4〜5百  
 軒のお勤めをして資金をため  
 て小さなお寺を建立します。  
 借家から次のステップになり  
 ます。私は何人もこのような  
 中からお寺を建て立派に寺院  
 運営をしている人を見てきま  
 した。築地本願寺の出張所か  
 ら独立して一宗教法人になっ  
 ていくのです。本願寺さんの  
 取り組みと若い僧の長い努力  
 が実を結んでいきます。  
 曹洞宗でも遅ればせながら  
 でもこのような取り組みがで  
 きないものだろうか。宗制を  
 見直して意欲ある方々が動き  
 やすいようにすべきと考えま  
 す。読者諸師はどう考えます  
 か。

### 仏教企画発行の刊行物 (\*部数により割引があります) すべて税別価格です

『修証義』解説 丸山劫外著	1,400円*
『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二・西館好子共著	1,200円*
『まんが問答一期一話』 文 平和宏昭 まんが 垣内敬遠	1,200円*
『葬送のしおり』 長井龍道著	30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著	500円*
『曹洞宗檀信徒経典』 須田道輝解説	300円*
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 霊元丈法著	140円*
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 霊元丈法著	150円*

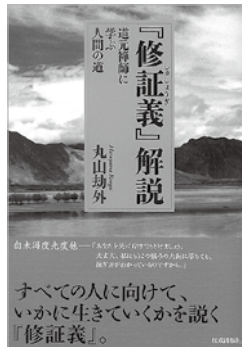
\*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄  
にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

曹洞禅グラフ	
発行日	
春 彼岸号	2月10日
夏 お盆号	5月30日
秋 彼岸号	8月20日
冬 正月号	10月30日
1部 200円	
9部以下	200円
10部以上	150円に割引
20部以上	135円に割引
50部以上	130円に割引
100部以上	120円に割引
200部以上	110円に割引
300部以上	100円に割引
500部以上	90円に割引

## 『修証義』解説 道元禅師に学ぶ人間の道

丸山劫外 著

発行所: 仏教企画  
発売元: 佼成出版社  
定価: 本体1400円+税



総 序——仏法に出会えた幸せ  
 懺悔滅罪——広々とした仏の御前に  
 受戒入位——仏の灯りに照らされて  
 発願利生——ともに手をたずさえて  
 行持報恩——あなたもやがて仏に

おもとめは下記お申込先までご連絡ください

### お申込み

〒252-0113 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

### 仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客番号(コード)になります。  
お申込みは ①ご寺院名 ②お客番号 ③電話番号でも可能です。